

みろく



夢を引き継ぐ者

1

「鉄鋼船建造」

壮大な夢に挑んだ若きリーダーの実行力



20歳の年齢で手に入れた住吉丸で海に乗り出して以来、一代で瀬戸内屈指の海運業者となつた神原勝太郎。時間とともにその事業は裾野を広げ、やがて造船業をも営むまでに至りました。海に生きて海に関わる事業を広げることを夢見た第一世代。その夢を引き継ぐ第2世代は、何を目指し、何を成し遂げたのでしょうか。

突如現れた砂浜の船台

今から60年以上も前、1957年秋の頃、常石の砂浜に不思議な構造物が出現しました。砂浜の上には30mのレールが敷かれ、レールはそのまま海底に10mほど伸びされていて、陸上のレールの上には車輪をつけた台車が置かれています。四隅に取りつけられた鉄骨の柱には廃船のマストが取りつけられ、ぶら下がった滑車からはワイヤーが伸びて人力のウインチにつながっています。どうやらクレーンのようです。

この不思議な構造物の正体は

すぐに分かりました。完成から1月も経たないうちに

台車の上に分厚い鉄鋼の板が置かれたかと思うと、日

の姿を現したのです。そ

うです、不思議な構造物は「船台」だったのです。

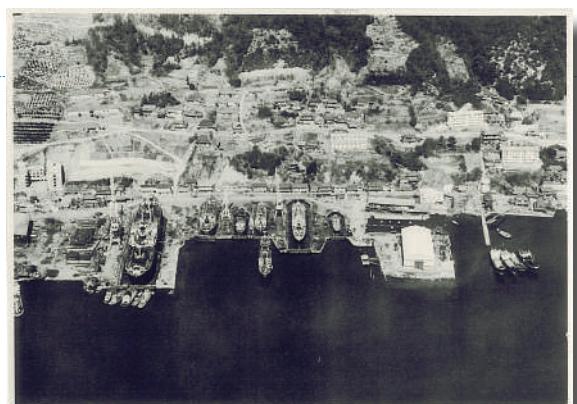
船の建造に携わった人々の大半は、木造船の船

大工の方々です。鑿（のみ）と金槌の代わりにハンマーとピペットを手にした彼ら

は、360トン、当時の瀬戸内では中型の鉄鋼船（美小丸）の建造に挑戦して、



鉄鋼船の船台



船台の風景

若きリーダーの果敢な挑戦

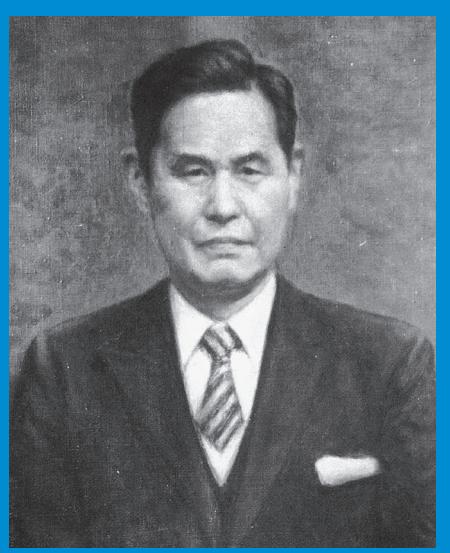
この船台と鉄鋼船の建造の製作総指揮を執ったのが神原秀夫。前回まで特集していた、常石グループの礎を築き上げた神原勝太郎の長男です。

この時36歳。京都立命館大学

在学中（後に卒業）に福山歩兵41連隊に召集され、そのまま中國大陸の前線である、徐州・広東・青島・大連、さらにはインドシナなどを転戦。約5年もの間、帝国陸軍の将兵として明日の生死も分からぬ日々を過ごして帰国（除隊）。

戦後は常石造船の副社長として、社長である父・神原勝太郎





神原秀夫の肖像画

せん。中には積載量を増やすため、船体を途中から切断して鉄板を熱してハンマーでたたいて中央部を新たに造り、切り離した前後の船体とつなぎ合わせるという大改造を施した船さえあつたのです。

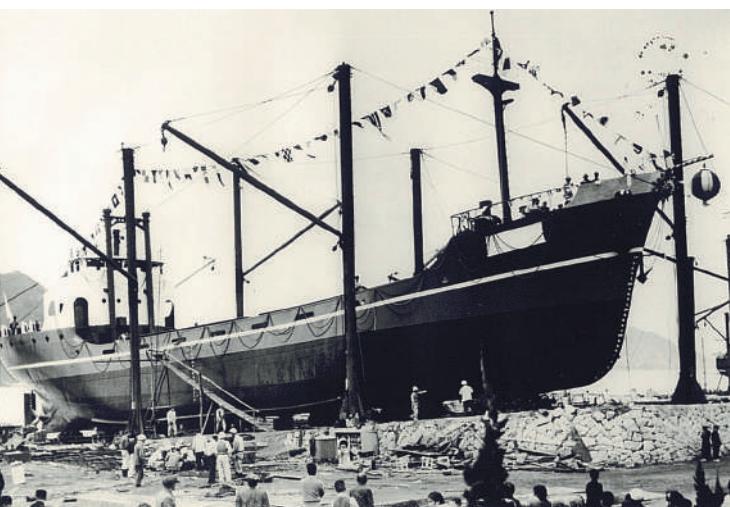
こうした改造は、単に輸送量を増やすという目的で行っていたわけではありません。秀夫はこの改造の過程で、技術者（船大工）たちに船の構造、鉄板の加工法、溶接技術、その他、鉄鋼船建造に関するさまざまな知識を学ばせようとしていたのです。

約10年の間、鉄鋼船の改造でノウハウを蓄えた常石造船が満を持

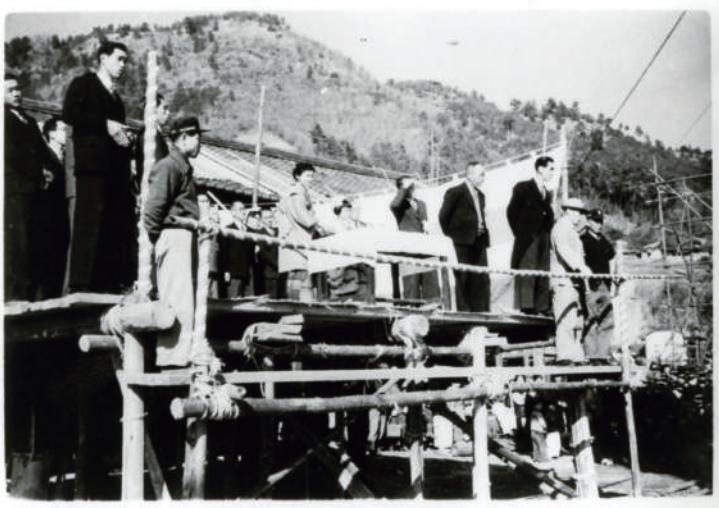
して取り組んだのが、最初に紹介した「砂浜の船台」。そこで建造された常石造船初めての鉄鋼船が、360トンの「美小丸」だつたのです。

当時の海運業界や造船業界のみならず、実業界における神原秀夫の評価は「行動力と実行力の人」というのが大半だったと思います。事実、北九州の若松を拠点とした石炭輸送、地元常石における造船事業、さらには沼

繊細さに裏づけられた 大胆な行動力



「美小丸」進水式



「美小丸」進水式に臨む神原秀夫

隈町の初代町長としての政治活動、すべてにおいてその行動力と実行力は群を抜いたものがありました。ことに沼隈町町長としては広報紙の発行、町内の県道拡幅、町営水道の敷設、ブドウ園地の基礎作り、八日谷の灌漑用ダム建設など、わずか2年という短い任期（健康上の理由で辞任）の中で、後の大隈町発展のための基礎作りを成し遂げています。

もちろん、実業家としての行動力と実行力については数多くの逸話が残されていますが、「一つひとつ紹介していくとそれだけで誌面が

隈町の初代町長としての政治活動、すべてにおいてその行動力と実行力は群を抜いたものがありました。ことに沼隈町町長としては広報紙の発行、町内の県道拡幅、町営水道の敷設、ブドウ園地の基礎作り、八日谷の灌漑用ダム建設など、わずか2年という短い任期（健康上の理由で辞任）の中で、後の大隈町発展のための基礎作りを成し遂げています。

戦争が終わった時点で、常石グループにはわずか6隻の被曳船しか残っていませんでした。ほとんどの持ち船は軍に供出させられていたのです。復興のための石炭需要は高まり、それを運ぶ海運事業も活況を呈していました。しかし、6隻の被曳船だけでは仕事にはなりません。

常石造船副社長とともに瀬戸内海船舶（後の神原汽船）の若き社長も兼任していた神原秀夫は、中古の鉄鋼船を積極的に買い取り、それを常石造船で改造して海運事業に投入するようになりました。

改造といっても、貨物船を石炭輸送船に改造するだけではありま

埋まってしまうので、ここでは割愛します。

こうした神原秀夫の行動力と実行力は、その場の思いつき、ひらめいたアイデア、見切り発車などアクションされるものではありません。計画の段階での地道な下調べ、必要なノウハウの蓄積、繰り返されるシミュレーションなど、緻密で地道な過程を経て初めて実行に移されているのです。

そして、これらを象徴しているのが、鉄鋼船の単純改造から積載量増大のための船腹拡大という複雑な改造などを通した技術とノウハウの蓄積を経て、「砂浜の船台」における鉄鋼船建造につながっているのです。

つまり、神原秀夫は「行動力と実行力の人」である前に、綿密な準備の裏づけのもとに、初めて大胆な行動に打って出る「繊細さに裏づけられた大胆な人」でもあつたということです。

見事に当たつた 売り込み作戦

夢はさうに大きな夢に つながる

①地元の船主に鉄鋼船の時代が訪れていることを啓蒙・周知する。
②建造費を中国銀行の融資で賄うなら、その保証は常石造船が請け負う。
③常石造船で建造するなら、そこの船は神原汽船がチャーターする。
④チャーターではなく自社で運行する場合の積み荷は、神原汽船が保証する。

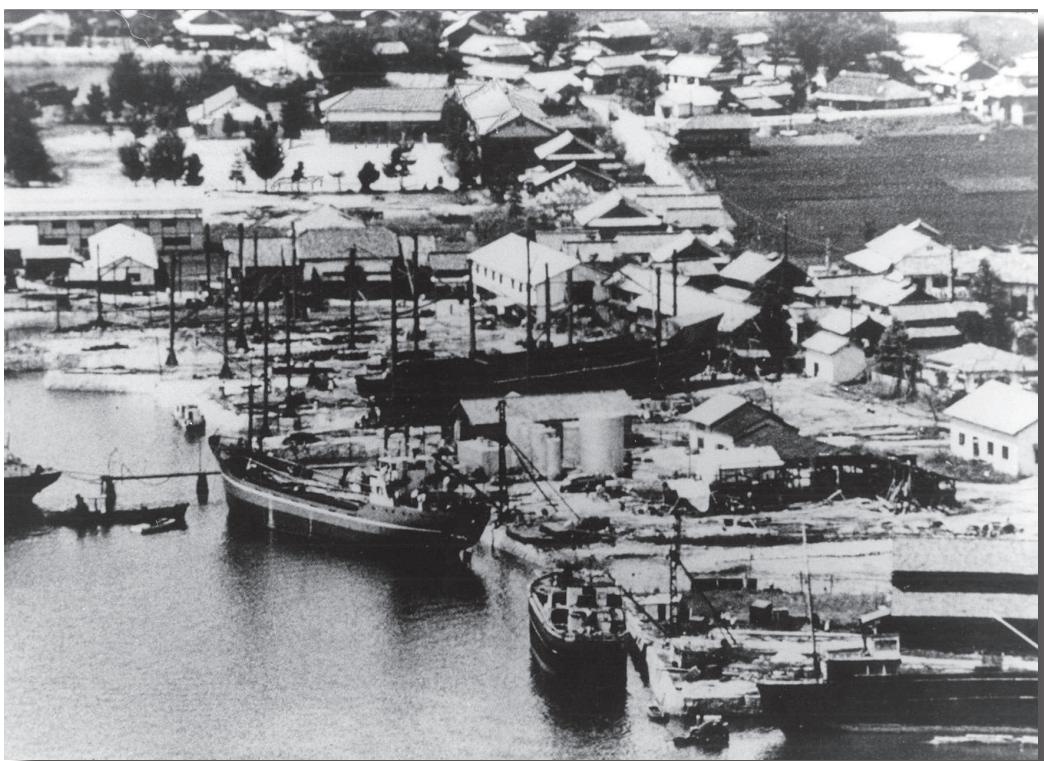
というものでした。この条件は、船主にとってとても魅力的なものでした。予想通り作戦は見事に当たりました。第1号の美小丸の建造が始まる、並行して第2の船台が建設されて2号船の遺芳丸（353トン）を、第3船台では3号船の福富丸（476トン）と、次々に鉄鋼船の建造が始まりました。

常石造船は鉄鋼船の時代に突入したのです。3台の船台では間を空ける暇さえなく次々に新造船が建造され、翌年の1958年には計5台の船台で合計11隻の新造船を建造（売上高2億6900万円）する実績を上げたのです。さらに翌年の1959年には「砂浜の船台」ではなく、造船法に基づく本格的な船台（700総トン）を完成させ、他の船台と合わせて14隻を建

造するなど、着々と実績を重ねていきました。

この時点では従業員数200人超、わずか数年前までは木造船の造船会社であった常石造船は、瀬戸内でも中堅を誇る本格的な鉄鋼船の造船会社としての体制を整えました。

以後、海に生きて海に関わる事業を夢見た初代の意志を引き継いだ第2世代・神原秀夫は、その夢をさらに大きなものとすべく果敢な行動を続けていくことになります。



新造船の建造が続く



今『新しい友達との生活』に夢中です！



第5世代の方に、自分が「今」
好きなものを自由に紹介してもらいます。

神原 菜々子さん



私は今、新しい友達との生活に夢中です。今年度高校1年生になって、いわゆる華のJKになったわけですが、一貫生なので中学校から高校と同じ学校に通っています。

中学校からの友達と高校3年間を過ごしていくと思っていたのですが、全く別の中学校から入ってきた特進生に友達ができました。高校からバレーボール部に所属しているのですが、そこに入ってきた特進生2人がとても気の合う子たちで、仲良くなるのに時間はかかりませんでした。幼なじみと特進生2人と私で、今は毎日楽しく過ごしています。

まるで小さい頃から4人でいたかのような感覚で、違和感などなく、むしろ居心地がいいです。中学校の友達も好きでとても大切ですが、出会いが増えればま

た新しい縁ができていくんだな、としみじみ思います。

まだ会って1年も経っていないのに小さなトラブルがあったり、でもそういう日々がまた幸せだったり。お互いのことを知っていくうちにどんどん大切な存在になっています。

学校帰りにいろんな所に行って遊んで帰ったり、毎週のように誰かの家に泊まりに行ったり、それで親に怒られたり…笑。自分で想像していた高校生活よりも、はるかに楽しくて素敵な生活を送っています。それも全部、周りにいてくれる友達のおかげです。疲れた日や落ち込む日もありますが、そんな日も友達に励ましてもらったり慰めもらったりして乗り越えています。

こんなにも気の合う人に出会ったのは初めてで、その気持ちも新鮮だし、お互い心地の良い距離感を保てる関係って、なかなかないと思いました。

コロナ禍の影響で行ける場所やできることがとても限られていて、楽しみたくても全力を尽くすことができなかつたりしますが、友達とお互いのことを支え合って、楽しく元気にこの状況を乗り越えられたらなと思っています。

今あるこの状況でできることに全力を注いで、これからこの高校3年間を大切な人たちと楽しんで過ごしていきたいと思います。



>>> 次回は、
神原 千琴さんに
リレーします。
お楽しみに！

